

**オランウータンの森 再生プロジェクト  
in インドネシア**

**2016 年～2017 年 報告書**

**一般社団法人 more trees**

## 【1】プロジェクト概要

インドネシアの熱帯雨林はアジア最大規模で、その森林面積は地球上に残存する熱帯雨林の約 1 割を占めます。しかし半世紀以上にわたる過剰な森林伐採や森林火災などにより、急激に森林消失が進んでいます。その大きな要因の一つが、パームオイルなどの生産を目的とした開墾のための火入れと、その延焼火災です。豊かな生態系を育む熱帯雨林には、インドネシア語で「森の人」を意味するオランウータンなどの絶滅危惧種を含む多くの動植物が生息していますが、度重なる森林火災等で生息地を奪われているのが現状です。

本プロジェクトの対象地は、現地でオランウータンの保護活動を行う BOS 財団が所有するカリマンタン島（別名ボルネオ島）東カリマンタン州サンボジャ地区の約 1,800 ヘクタールの土地のうち、2015 年の大森林火災で焼失した約 266 ヘクタール、東京ドームおよそ 57 個分にもおよぶ火災跡地です。

BOS 財団では様々な理由で生息地を追われたオランウータンを保護し、森に還すためのトレーニングを行っています。トレーニング過程の後期では放し飼いや実施されるため、スムーズなトレーニングを実施する観点でもより早い森林の回復が必要とされています。プロジェクトではオランウータンの餌となる果樹や在来種の植林によって森林の再生を図るとともに、繰り返し発生する火災に備え、防火帯や貯水池などのインフラ整備を行っています。

## 【2】活動報告

### (1) 森林再生

2017 年までに、BOS 財団、地域住民の方と火災跡地に 511 本の植林を行いました。

2015 年の森林火災から時間が経過し、火災跡地は一見緑に覆われています。しかしこれはただ草木が生い茂っているだけで、実際は森林が再生したのではなく、草地になっているというのが現状です。植林作業では、まず生い茂った草木を刈り、等間隔で苗を植える穴を掘り、施肥し、苗を植えていきます。



草木が生い茂る植林予定地



植林作業



植林された苗



植林実施エリアに設置されている看板

オランウータンのリハビリ環境にも適した、多様な動植物が生きる豊かな森の再生を目指し、フタバガキ科を中心とした在来種と、オランウータンの餌となるランバイなどの果樹を含む 8 種を植林しています。植林後に枯れてしまった苗については植え替えを行っています。

No	Type	Species	
		Latin	Local Name
1	Fruit	<i>Syzygium polyanthum</i>	Daun Salam
2	Fruit	<i>Artocarpus integer</i>	Cempedak
3	Fruit	<i>Lansium domesticum</i>	Langsat
4	Fruit	<i>Baccaurea motleyana</i>	Rambai
5	Wood	<i>Shorea balangeran</i>	Balangeran
6	Wood	<i>Shorea laevis</i>	Bangkirai
7	Wood	<i>Aquilaria malaccensis</i>	Gaharu
8	Wood	<i>Dryobalanops oblongifolia</i>	Kapur

植林された樹種の一覧

## (2) 火災防止のためのインフラ整備

### ① 貯水池

火災発生時に迅速な消火活動を実施するために、火災跡地に限らず、BOS 財団のサンボジャ地区敷地内の 6 箇所に貯水池を建設しました。これにより、万が一火災が発生した場合でも、現場近くの貯水池から水を供給し、迅速に消火活動を行うことが可能になりました。



貯水池建設の様子



完成した貯水池

### ② 防火帯

敷地内の防火帯の敷設・整備を行いました。防火帯は、樹木を帯状に伐採した燃え止まり地帯のことです。火災の炎が迫ってきたとしても、可燃物が無いため延焼を食い止めることができます。インドネシアは赤道直下の熱帯性気候で、植物の生育が早く、敷設した防火帯はすぐに草木に覆われてしまうため、継続的な整備も行っています。



防火帯敷設の様子



防火帯整備の様子

### 【3】2018年以降の展望

2015年に発生した森林火災の跡地については、実施可能範囲の植林が進んできています。残りの火災跡地への植林を進めるとともに、植林後の管理（下草刈り、枯死した苗の植え替えなど）を継続的に実施していきます。

火災防止のためのインフラに関しては、貯水池は2017年までに必要数の設置が完了したため、今後は必要に応じて整備を実施していきます。防火帯についても既存のものを中心に組み立てていきます。

また今後は現地を訪問し、植林体験やオランウータンのトレーニング施設の見学、熱帯雨林の散策などを通して生物多様性の豊かさを体験するオリジナルツアーを実施することで、プロジェクトへの理解を広め、インドネシアの森をめぐる現状を広く伝えていきたいと考えています。

## プロジェクト概要

プロジェクト対象地：インドネシア 東カリマンタン州

プロジェクト期間：2016年3月～

対象面積：266ha

緯度経度：1°03′00.2″S, 116°59′19.7″E

対象地区詳細：Margomulyo, Samboja, Kutai Kartanegara, Kalimantan Timur

実施パートナー：Borneo Orangutan Survival Foundation (BOS 財団)

樹種：Narra, Molave, Dao, Tuai, Palosapis, Balakat-gubat, Kalantas, Pomelo, Citrus family, Lanzones, Rambutan

取組内容：再植林 (Reforestation)、

## プロジェクトのあゆみ

2016年 現地パートナーBOS財団とMOU締結

2017年 プロジェクト正式スタート 植林開始、枯死した木の植替え、火災防止のためのインフラ整備 (貯水池、防火帯)

## BOS財団について

現地パートナーとして more trees と一緒にプロジェクトを進める BOS 財団 (Borneo Orangutan Survival Foundation) は、オランウータンの保護を目的に 1991 年に設立されたインドネシアの非営利組織です。

ボルネオオランウータンやマレーグマなどの野生生物の保護と彼らの住処である森林の保全を、地域コミュニティやインドネシア環境省、海外パートナー組織と進めています。

財団では、オランウータンを森に還すためのリハビリテーションを行う飼育員のほか、霊長類の専門家、獣医、生物多様性、森林リハビリテーション、教育など各分野のエキスパートを有しています。現在、約 650 頭のオランウータンをリハビリ中です。

団体名 Borneo Orangutan Survival Foundation

設立 1991年

本部 ボゴール (インドネシア・ジャワ島)

代表 Dr. Bungaran Saragih (ブンガラン サラギ) 氏 (元インドネシア林業大臣)

職員数 約 400名

URL <http://orangutan.or.id/>